

Q: 台風21号の復旧対策について

A: 住宅への二次災害防止及び宅地内流入土砂等の撤去は、五條市単独災害対策補助金制度がある。

窪 佳秀議員



防災行政について

窪 台風による被害の報告先について伺う。

危機管理監 危機管理課が窓口となり、担当課を紹介する。

復旧の対応について

窪 激甚災害に指定されない、対象外の災害の対応について伺う。

産業環境部長 今回の激甚災害対象は、農地・農業用施設の復旧事業が対象である。対象外の災害は①市単独土地改良事業補助金、②材料支給、③中山間地域等直接支払交付金制度、④多面的機能支払交付金制度で対応する。

危機管理監 住宅への二次災害防止及び宅地内の流入土砂等の撤去については、五條市単独災害対策補助金制度がある。

窪 個人所有地の復旧のため、特段の配慮をお願いする。

防災行政無線の活用状況について

窪

窪 今回の台風で防災行政無線を活用したと思うが、家の中にいた市民が多く、また、風の音等で内容が聞こえない等の声を聞く。今後の対応について伺う。



危機管理監

聞き取れない場合は、テレホンサービス（☎222-2233）やFM

M五條、携帯電話エリアメールを活用している。今後、音量を最大にするとともに2回放送していたものを繰り返し放送を行う。

窪 北宇智地区住川町の放送設備が不十分である。調査を行い検討するとともに、

一人暮らしの人には個別受信機の増設も願います。

避難所の対応について

窪 避難所に自主避難する時に持参する物の周知・啓発について伺う。

危機管理監

防災ガイドブック等において周知しているが、日頃から必要な物等の準備をしていただき、避難されるようご理解・ご協力をお願いしたい。

窪 避難勧告・避難指示を区分し、市が準備する物・避難者が準備する物を啓発していただきたい。



市の活性化について

窪 五條インターチェンジ周辺利用計画の進捗状況について伺う。

都市整備部長

現在基本計

画の策定に向けワーキング会議を立ち上げ議論を深めている。若手職員を対象としたプロジェクトチームでアイデアを出し合い計画を固めて行き、併せてPFI導入可能性の調査を行う。

窪 スピード感がない。今後のスケジュールについて伺う。

都市整備部長

五條でしか感じ取ることができないような魅力を出す。にぎわいが生み出され道の駅から市内各地へ周遊していただけるような質の高い仕組みを探るため議論を続ける。

市長

京奈和自動車道大和御所道路の開通により五條と近畿各地は近くなった。中南和の玄関口としての顔づくりが重要である。来訪者に魅力を感じてもらえるよう、ありきたりのものを作らないようにしなければならぬ。厳しい財政状況のなか、民間活力を検討する。



牧野雅一議員

Q: 五條市の林業について

A: 視察や研究会の立ち上げなどで職員のスキルアップを行い、振興をすすめてまいりたい。

五條市の林業について

牧野 日本の林業は材価の

低迷により林業経営者は意欲を失い、若者は都市部へ雇用を求め、山村地域では地域活力も低下、山を守る機能が無くなりつつあり、9月議会で「林業振興は大塔町のみならず、五條市全体の産業の振興に結びつけることが地域を輝かせ五條のまち全体の光になる」との思いから質問し、「行政のサービスが一過性で終わらず継続可能にしていくためには、一つになって五條市の林業をどのようにしていくのか」ということ議論をする事がまず必要」との答弁だったが、その後の進捗は。

産業環境部長

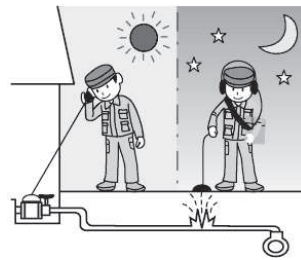
十津川村の林業政策の状況を視察、「五條市林業推進研究会」を立ち上げ木質循環型社会の実現を目的に職員のスキルアップを行い、五條市の林業



振興を進めてまいりたい。

牧野 五條市の森林は大塔

地域に集中している。支所を基盤に林業の振興を深め地域を輝かせ五條のまち全体の光になるよう、協力し合い取り組まれることを願う。



「安全な水を安定してお届けするために」のお知らせビラについて

牧野 「漏水で年間約65万

m³の水が給水収益にならずに減失しており」とあるが、金額にすると幾らぐらいで、漏水はいつ頃から見受けられているのか。

水道局長 換算すると約1

億2千万円となり漏水が顕著に見受けられた正確な時期は不明であるが、既に30年前には有収率が悪く過去から慢性的な漏水が発生している。

牧野 決して水道料金の値

上げはダメだと言っているのではなく、長年にわたる市民から預かり、安全な水を安定して届けるための水道料金を行政サイドの怠慢で放置されていた事実をお詫びし、この街で暮らし、今後も暮らし続ける市民に大きな負担をかけ、それを押し付けるのではなく、負担を軽減した取組を示し、理解を得て進めるべきであると考える。



新庁舎周辺街路計画の進捗について

牧野 新庁舎への動線であ

る本陣交差点からの工事車両進入口となる須恵四号線は「工事車両と一般車両とが接触しないよう通行車両歩行者の安全確保を行った上で、造成工事に着手する」と答弁だが、工事期間中や竣工後も新庁舎の利用で通行量が増えるのは誰しもわかることである。

市長 動線と

して須恵四号線は重要な位置づけであり、分散できる方法も考え、新たな方策も考えられるのであれば考え、直近に地元の皆さんと協議を進める。

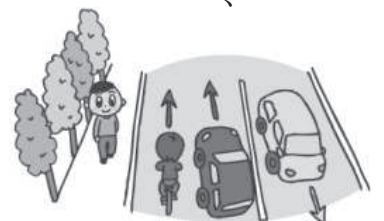
牧野 あの通りでお住まい

の方・商売をされている方の知る限り、ほとんどの方々が五條市を愛し住み続け、理解・協力いただけると思う。そのような市民に少しでも、負担を軽減される対策が必要と考える。



その他の一般質問

1. 大塔町の振興について
2. 遊休資産の利用計画について
3. 職員の就労環境の整備
 - ① 改善に向けた取組について
 - ② 代休の取得状況について
4. 新庁舎周辺街路計画の進捗について
5. 台風21号の被災・復旧状況・見通しについて



Q: 低地への流水に関するハザードマップの作成や対策は

A: 平成26年に作成し配布したが、浸水予想区域の見直しがあったため現在変更し作成している。



伊谷賢司議員

上野公園周辺の整備計画について

伊谷 二見・野原地区の築堤事業の国との協議はどのように行っているのか伺う。

都市整備部長 要望活動及び協議を行い、平成24年公表の紀の川水系河川整備計画に野原西・二見の築堤計画が盛り込まれた。今後も五條市のまちづくりや河川利用のため国との協議を行ってまいる。

伊谷 国との話し合いをしつかり詰め、築堤工事の後のビジョンを示していただきたいと思う。

上野公園の築堤工事は数年後とのことであるが、市の整備計画について伺う。

都市整備部長 平成29年1月に国土交通省和歌山河川国道事務所から、上野地区築堤の具体案が提示され、現在の上野公園の臨時駐車場の3分の2が堤防となる計画であるため、残地の市

有地傾斜部分の有効利用を図り、築堤と一体的な駐車場用地造成を行っていただくよう要望を行った。

伊谷 積極的に整備の陳情を行い市のビジョンをしっかりと持つことが今後大切なことだと思うので、どんな調整をし、よりよい築堤後の整備計画を作っていただきたいと思う。

低地への流水対策について

伊谷 低地への流水に関するハザードマップの作成や対策についての方針を伺う。

危機管理監 平成26年度に市内13地区別に紀の川・丹生川が氾濫した場合に想定される浸水想定区域と土砂災害のおそれのある箇所・避難施設などを示したハザードマップを作成、市内全世界帯に配布し、ホームページ等で公開している。

その後に紀の川における浸水予想区域の見直しがあったため、現在変更部分の

ハザードマップを作成している。今後はこのハザードマップを活用し、市内の自主防災会との連携を密にしながら「自助」「共助」の重要性を認識できるように取組を進めてまいりたい。

伊谷 自助・共助、そして公助をしっかりと組み立てた対策をお願いする。

流水のおそれのある地区に関して行政としてどのような対策をとるのか伺う。



危機管理監

過去の経験上浸水するおそれのある箇所すぐに設置できるように土の備蓄、またハザードマップを活用し、早期の避難を最優先にすることを周知してまいりたい。

市の発展について



伊谷 五條市の更なる発展を願う思いがあり、いろんな分野で元気にする方法に取り組みたいと考えている。

農産業振興における第六次産業の推進についての現状と展望について伺う

産業環境部長 現状については、農林水産省の第六次産業化・総合化事業計画の認定を受けた7者の認定者がいる。

地域の生産者や加工をされている方々の声を反映し、地域の魅力を伝え、五條市に人を呼び込めるような農林畜産物をアピールできるマップも含めて効果的なPR素材を検討してまいる。



Q:ハンターも高齢化しているが、後継者の育成について

A:狩猟免許費用の補助実施や、県の「狩猟免許取得促進講習会」にも積極的に参加している。

岩本 孝議員

有害獣対策について

岩本 近年、農作物に大きな被害を及ぼすイノシシ、鹿、アライグマの捕獲状況についてお尋ねする。

産業環境部長 平成29年4

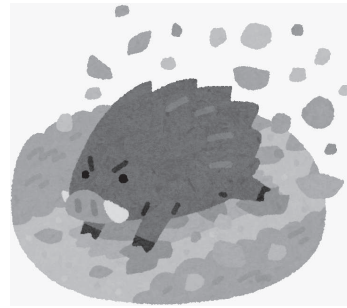
月1日から11月30日までイノシシ540頭、鹿109頭、アライグマ116頭、合計765頭を捕獲。平成25年から平成29年11月までの累計で、イノシシ4,646頭、鹿1,801頭、アライグマ637頭、合計7,084頭を捕獲した。

岩本 5年足らずで7,084頭、多くの有害獣を捕獲いただいているが、一向に被害が減らない。「これでは柿等生産者の勤労意欲が減退する。どうにかして欲しい。」と訴える人がたくさんいる。

イノシシ・鹿が果樹園等に入らない対策、防護対策及び鳥獣被害防止対策事業に係る事業費についてお尋ねする。

産業環境部長

平成29年度鳥獣被害防止対策事業は、69団体、延長約101kmになる計画である。平成29年度の事業費予算は1億2,600万円を計画している。



岩本 昨年度から防護柵も頑丈になり、柵を押し上げて侵入してくるイノシシに対する金網も補強され、事業費も増えてきている。しかしながら被害は一向に減らない。そこで、捕獲した場合の報償金についてお尋ねする。

産業環境部長 一頭あたり

の交付金基本単価は、鳥獣被害防止対策事業交付金交付要綱で示す「緊急捕獲活動支援」の交付率を採用し運用、成獣イノシシ・鹿1

頭8,000円、幼獣イノシシ・鹿1頭に1,000円。加えて、五條森林植生保全事業補助金交付要領に基づき、雌鹿1頭につき8,000円、アライグマ1頭につき2,000円を交付している。

岩本 近隣市町村の報奨金の状況をお尋ねする。

産業環境部長 和歌山県橋本市は15,000円、和歌山県伊都郡高野町は15,000円、大阪府河内長野市はイノシシのみ8,000円である。



岩本 ハンターの育成について、本年度の狩猟免許受験者は何名かお尋ねする。

産業環境部長 本年度の狩猟免許受験者は13名、平成29年の五條市狩猟者登録者

は97名である。

岩本 ハンターも高齢化している。後継者の育成についてどのように考えているのかお伺いする。

産業環境部長 昨年度から狩猟免許に関する補助制度を実施している。奈良県が農家自らも狩猟免許取得推進を目指し、年2回開催する「狩猟免許取得促進講習会」に五條市も積極的に参加し、講師も派遣している。



その他の一般質問

台風21号の災害対応について

①西吉野町平沼田の災害について

②地滑り対策について

③避難者への対応について

④市役所職員の危機管理向上に向けた防災教育の必要性について